

2025 年 4 月 4 日

研究休暇報告書

南山大学長
ロバート・キサラ殿

所 属 人文学部心理人間学科

職氏名 准教授 土屋 耕治

受入研究機関等：自宅および研究室、なお、短期で複数回イギリスに行く予定

期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日（1 年間）

目的：博士論文執筆、ならびに、その他の研究を進めるため

2024 年 4 月 1 日より 2025 年 3 月 31 日までの 1 年間にわたり、研究休暇をいただきました。下記のとおり、期間中の活動について報告いたします。

1. 研究活動

a. 博士論文「直接経験による全体推定の変化」に関する研究遂行

これまで、態度と行動の相互作用によって、社会的影響がどのように現れるのかについて、実験室実験や実験的調査などを用いて検討を加えてきました。期間中、サンプリング行動について、選択の主体とサンプルサイズが全体の推定に与える影響というテーマで収集したデータを分析し、論文の執筆を進めました。また、これらの実証データをもとにしつつ、環境に触れた一部から全体について推測することを説明する認知生態学的アプローチに関するレビュー論文の執筆を進めました。残念ながら期間内に投稿・掲載・完成には至りませんでしたが、分析・執筆を進めることができました。引き続きの公表、博士論文の完成を目指します。

b. 外部研修への参加と成果

科学研究費基盤研究 (C)「システム論で捉える組織内の ASD 者への支援的アプローチ」(22K03040、2022 年 4 月–2026 年 3 月)に関する研究を進めました。なお、研修参加費は、

2024 年度人文学部特別配分研究費の支援を受けました。

具体的には、組織をシステムとして捉えた働きかけの手法を学びに、Tavistock Institute of Human Relations がイギリスのロンドンにて主催するワークショップ（Practitioner Certificate in Consulting and Change）に参加して、知見を深めました。2024 年 4 月、6 月、7 月、9 月に行われる短期の研修に都度渡英し、参加しました。参加を通して、組織全体の関係性や無意識の抵抗、働きかけの技法について理論的・実践的に学習し、研修生同士のグループワークを通して、組織変革の手法を具体的に学修しました。

研修で得た知識をもとに、国内外の組織現場での適用可能性を検討し、学会発表や論文執筆、コンサルティングの際のスキルなど今後の研究活動の基盤を強化することができました。

具体的には、下記の通り、査読付き論文（共著）として公表いたしました。

- ・ 石上博之・土屋耕治（2025）. 「次につながるちょっとした動き」の生起を支援する：大手企業における組織変革企画チームのコンサルティング事例を用いたアダプティブ・ムーヴの探究 組織開発研究, 9, 1-22.

c. 書籍『人間関係の学び方：人間関係の学び方：人間性豊かな関係を育む「ラボラトリー方式の体験学習」の理論と実践』（ナカニシヤ出版、2024 年 11 月刊行）の編集・出版

書籍『人間関係の学び方』の編集を楠本先生・中村先生と共に担当し、人間関係研究センターの先生方の執筆のもと、出版を実現しました。具体的には、全体の編集に加え、下記の 5 つの章の執筆を行いました。

- ・ 1 章 学び方としてのラボラトリー方式の体験学習：プロセスから、ともに学ぶ（pp. 2-7）
- ・ 3 章 内省的で協働的な探究（pp. 16-19）
- ・ 5 章 システムのさまざまなレベル（pp. 30-32）
- ・ 9 章 非構成グループにおけるプロセス（pp. 63-70）
- ・ 22 章 グループの話し合いのファシリテーション（pp. 128-133）

d. 『はじめよう！心理学研究：「テーマが決まらない」を乗り越える』（ナカニシヤ出版、2025 年 2 月刊行）の執筆

書籍『はじめよう！心理学研究：「テーマが決まらない」を乗り越える』（浦上昌則・藤田知加子・解良優基（編））の下記、2 つの章の執筆を行いました。

- ・ 2-4 もしも D 先生に相談していたら 好きな料理を見つけるように研究テーマを選ぼう (pp. 64-71)
- ・ 3-4 もしも D 先生に相談していたら さまざまな角度から納得のいく切り口を探そう (pp. 114-120)

e. 『特殊詐欺の心理学』（誠信書房、2024 年 9 月刊行）の執筆

書籍『特殊詐欺の心理学』（越智啓太・桐生正幸・原田知佳・島田貴仁（編））の下記、1 つの章の執筆を行いました。

- ・ 第 12 章 特殊詐欺被害者へのスティグマ付与から考える啓発活動の留意点：「被害者は悪くない」（pp. 211-225）

f. 犯罪心理学研究の論文刊行（査読あり、共著）

特殊詐欺に関する実証研究を、犯罪心理学研究に刊行しました。

- ・ 原田知佳・土屋耕治（2025）. 社会的孤立・孤独感・一般的信頼は特殊詐欺のリスク要因となり得るか：オレオレ詐欺被害者と看破者との比較検証 犯罪心理学研究, 第 62 巻 第 2 号, 1-11. https://doi.org/10.20754/jjcp.62.2_1

g. 学術論文・学術書の形式以外の研究業績

下記、学会シンポジウムへの登壇、また、学会ポスター発表を行いました。

- ・ 話題提供「組織開発の視点から見るチーム・ダイナミックス」 産業・組織心理学会 自主企画シンポジウム「組織の未来を拓く『チーム』のちから—現代的課題の解決と今後の展望—」（秋保亮太・縄田健悟・三沢良・土屋耕治・村瀬俊朗、2024 年 9 月）
- ・ 石上博之・土屋耕治「事例ライティングのススメ、その後（事例研究論文作成の経験共有）」 OD Network Japan 2024 年度年次大会 ポスター発表（2024 年 9 月）

2. 教育活動

2024 年度 Q1・Q3・Q4 において、心理人間学演習、及び、研究プロジェクトを担当し、学生の研究指導、論文指導にあたりました。

一部、未完ではありますが、海外研修への参加、様々な書籍の執筆、論文の刊行など、研究のためのまとまった時間をいただいたことで、研究活動を大きく進めることができました。貴重な機会をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

以上